



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.7

[発行日]平成25年12月20日 [発行]四日市看護医療大学 底務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

次なる成長に向けて

四日市看護医療大学学長 丸山 康人



四日市市・市立四日市病院との公私協力方式により2007年に本学が開学してから、早7年の歳月が流れました。おかげさまで、この間に学部卒業生306名、大学院修了生5名を社会へと送り出し、現在、学部生470名、大学院生23名が晩学園綱領「人間たれ」のもと、日々学修に励んでいます。

開学以来、高等教育機関である大学として教育研究の充実に努めてまいりましたが、2012年10月に公益財団法人日本高等教育評価機構による「大学機関別認証評価」を受審し、2013年3月には「大学評価基準に適合している」との認定を受けました。

また、教育研究活動のさらなる高度化を図るため、大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)を2011年4月に開設しました。そのうち実践看護学領域急性看護学専門看護師(CNS)コースは、2013年3月に一般社団法人日本看護系大学協議会より三重県内では初めてクリティカルケア看護分野の専門看護師教育課程(26単位)として認定されました。2013年3月に修士号を得た初めての修了生5名のうちの2名がこの教育課程の修了者であり、今後、公益社団法人日本看護協会が行う専門看護師認定審査に合格すると、急性・重症患者看護専門看護師の資格が与えられることとなります。

さて、ドイツの教育思想家であるルドルフ・シュタイナーは7年を一つの周期として人生を捉えています。人間は生まれてからの7年間に「意思」が育ち、次の7年間で「感情」を育て、21歳までに「思考」を育むといわれています。7年という時間は人生において、一つの区切りといえるのでしょうか。

開学7年を迎えた本学をこのシュタイナーの説に当てはめてみると、ちょうど「意思」を育てる期間が過ぎたことになります。大学が教育機関として「意思」を育てるということは、大学がその教育研究理念を具現化し、それに適う人材

を養成するということにほかなりません。本学においては、開学からの7年間で高度医療に対応できる優秀な保健師・助産師・看護師を数多く輩出することができましたので、これからは次なる成長過程である「感情」を育てる段階にさしかかるのだと思います。

それでは、大学が「感情」を育てるということは、どのようなことを指すのでしょうか。それはすなわち、大学としての個性・特色を伸張させ、学生が十分な教育を受けたと実感することなのではないかと私は考えます。

近年、社会的に大学教育の質の向上が叫ばれています。2012年8月に中央教育審議会が答申した「新たな未来を築くための大学教育の質的変換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」においても、その必要性に言及しています。大学教育は、学生の主体的な学びをいかに引き出すかに重点が置かれるべきであり、中でもアクティブラーニングと呼ばれる、学修者の能動的な参加を取り入れた教授・学習法が重要であると説かれています。主体的な学修は、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成に欠かせないものだからです。本学では、看護学という学問分野の性格上、実習科目をはじめアクティブラーニングにつながる学修内容が教育課程の中で大きな比重を占めており、これはそのまま、将来のキャリア形成の基盤を築くための貴重な場にもなっています。学生は、不安と緊張の中で臨地実習に取り組みますが、多職種が連携しあって提供されるチーム医療の中で現場の声を直接聞き、患者/クライアントとのコミュニケーションの図り方を学ぶなど、教室での講義だけでは得られない学びを実感することとなります。

7年間は長いようで短いものです。7年後には東京でのオリンピック・パラリンピックの開催が決定しました。さらにその7年後には、リニア新幹線が東京・名古屋間で開通するそうです。オリンピック・パラリンピックが開催されるとき、またリニア新幹線が開通するとき、本学はどのような「感情」を持ち、どのように「思考」する大学となっているのでしょうか。私は学長として学生・教職員とともに一歩一歩喜びや苦労を積み重ね、多彩な個性の育成に力を尽くしていきたいと思っています。教育内容の質を保証すべく、常にカリキュラムや教育方法の見直しや改善を図り、個々の学生を大切にした主体的な学修を促す環境づくりに注力してまいります。変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成25年度 四日市看護医療大学・大学院 入学式



平成25年度四日市看護医療大学・大学院入学式が挙行されました。平成25年4月1日(月)、本学7期生及び大学院3期生の入学式が挙行されました。当日は、四日市市副市長をはじめ、四日市市議会議長、市立四日市病院長、副院長・看護部長、三重県看護協会副会長の来賓の方々にもご臨席いただき、教職員、ご父兄が参加のもと学部生116名、院生7名の新入生が新しい学生生活へとスタートをきりました。式典では、丸山学長からの入学許可宣言に始まり、学長告辞・来賓祝辞をいただき、学部生代表の山崎春佳さん、院生代表の畠中三千代さんが、これから的学生生活に向けての入学宣言を新たな決意で述べました。

教員からのメッセージ

大学の近くの竹林は、春に芽が出て、四季の移り変りの中でしなやかな竹になり私達の心に癒しをもたらしてくれています。学生はその「竹」のようです。入学して、看護に関する知識やイメージをほとんど知らない学生が学修を始めます。まず、2年かけて看護の本質や役割に関する基礎固めをします。1年生の頃は、手技を実施することに必死です。2年生になると、患者にあった援助が行えるように、時間を忘れて夜遅くまで勉強や練習をしています。そのため、不安もあれば自信もでできます。そして、2年生の夏に初めて病院で4日間実習をします。すべてがホンモノの世界で実際に看護をします。そこで、未熟な知識や技術のことだけでなく、自分自身のことも考えます。「嬉し涙、悔し涙、感動の涙」を流し、落ち込んだりもします。そこから何をしたらいいかを考え、試行錯誤し、変化し、愚痴らなくなります。時々、迷走して悩みますが、「やっぱり看護師になりたい」と意志を固め、1人の人間として成長をしていきます。まるで竹が大地に根を張り、大空に枝を伸ばすように目標に向かって行動していきます。そんな学生達がこれからの看護を支えてくれると期待して胸を躍らせています。



基礎看護学 講師 加藤 瞳美

学友会 新入生歓迎会

4月3日、新入生歓迎会が学生食堂で行われました。毎年、学生間や教員との親睦を深め、大学生活をより充実したものにしてもらおうと学友会の主催で行っています。

当日は、学友会会長や豊島学科長から歓迎の挨拶があり、クラブ・サークルの紹介などもあり、軽食を交えて和やかに歓談しました。先輩学生による「おもてなし」の心あふれる新入生歓迎会となりました。



教育後援会役員会・総会

6月22日(土)、本学において、平成25年度教育後援会役員会及び総会が開催されました。

大西栄市教育後援会会長の挨拶で始まり、昨年度の事業報告および決算報告、役員の選出、平成25年度の事業計画および予算案について審議され、すべて承認をいただきました。

大西新会長から本会についてご理解とご協力について、また大学の教育事業を支援するとともに学生生活のバックアップをしていきたい旨の抱負を頂きました。大学から、国家試験、就職状況、クラブ等学生生活についての報告があり、意見交換がされ、充実した内容で終了しました。



保護者懇談会



10月5日(土) 平成25年度 教育後援会主催保護者懇談会開催

今年度は、62組71名の方にご参加いただきました。前年度より参加者も増え、保護者様同士の交流や、本学へのご理解がいっそう深まった事と存じます。今回のプログラムは、3部構成で全体説明会、懇親会、個別面談の順に進行しました。全体説明会前半では、本学の教育理念について豊島学科長から、また学生生活について山本学生支援センター長から説明

させていただきました。全体説明会後半では今回初めて外部講師の講演会を行い、ヨナハ在宅ケアセンター・センター長の花井 裕子先生に「現在の在宅医療の現状について」というテーマでご講演いただきました。また、午後のアドバイザーによる個別面談では1組15分程度の面談時間ではありましたが、ご子弟の学修状況を知る有意義な時間になったと思います。

オープンキャンパス

平成25年度オープンキャンパスが、夏休み期間中の7月20日(土)、8月5日(月)、25日(日)に実施されました。今年も地元高校を中心とした多くの高校生やその保護者様にご参加いただき、全ての開催日の参加者数の合計は、昨年を上まわる515名となり、本学への関心の高さは引き続き高い状況にあると感じられました。

イベント内容として、午前中の全体説明会では、四日市市健康福祉部長様から本学への支援制度などのお話をいただき、続いて大学紹介DVDの視聴、今年度の入試に関する説明を行いました。その後、学生食堂へ移動しバイキング形式の昼食で学食体験、午後は模擬講義、看護体験実習、

施設見学など自由にイベントにご参加いただき、大学の雰囲気を感じていただく時間としました。そして、学生ホールでは入試相談コーナーや、在学生と直接話ができる「先輩と話そうコーナー」を設け、入試や受験勉強、大学生活などについて熱心に質問する高校生や保護者様で賑わっていました。

来年度は更に、充実したオープンキャンパスにできるよう努めていきたいと考えます。



防災訓練

9月13日(金)11:30より東海地区に大規模地震災害が発生したことを想定し、一連の防災行動を把握することを目的とした訓練を行い、教職員と学生約230名が参加しました。



訓練内容としては、緊急地震速報を受信した避難訓練や安否確認(学外者に対して災害用伝言板を利用)などを行いました。また、避難生活環境の構築として、実際に避難生活上の必需品等を準備し、生活体験の訓練を実施しました。

教職員研修の活動について

平成25年度FD(Faculty Development)活動について

FD委員会委員長 福原 隆子

学士課程教育におけるFDが義務化された現在、大学教育の向上が以前にもまして求められております。本学におきましても、教員の教育力、教育活動の向上にむけて、学期ごとに各教科の「学生による授業評価アンケート調査」を継続的に実施してまいりました。しかし、アンケート結果のフィードバック等が、個々の教員レベルの対応にとどまっており、(大学認証評価において)大学全体の教育の質の向上に反映していくような組織的な取り組みの必要性が指摘されております。また、新たな課題として、学生の自学自習の促進につながる方策づくりも急がれます。本委員会では、教育活動の改善を組織的に推進するための体制づくりにむけて、効果的な授業評価の在り方を中心に、他大学での取り組みを参考にしつつ、検討を重ねてまいりました。12月に開催予定のFD教員研修会において、たたき台として委員会案を提示し、全体討議を行い、その結果をもとに、今後のFD活動の推進、活性化につなげていきたいと考えております。

学生支援およびアドバイザーリスト制度について

学生委員会委員長 山本 美佐子

本学では、学生支援の一環として学生生活における学修環境や教育・生活支援などに関する学生生活満足度調査を行っています。学生委員会では、全学年の学生を対象に行った昨年度の調査結果を総括したうえで、学生生活の充実に向けて対応を検討し今後の学生支援につなげていく予定です。大学での生活環境などすでに今年度から対応したものもありますが、現在は、アドバイザーリスト制度、学期初め(4月・9月)のオリエンテーション、カウンセラーによる学生相談などを、学生が有益かつ利用しやすくするための内容や方法、周知手段について検討しています。

平成25年度 ハラスメント対策研修会

ハラスメント対策委員会委員長 山本 美佐子

平成25年度ハラスメント対策研修会は、「指導するつもりがアカハラに?—これまでの自分を振り返り、学生への支援方法を考える」のテーマで7月に学生委員会と合同で行いました。教育指導(講義・演習・実習)の場や、アドバイザーとしての学生との関わりのなかで、学生にとってはハラスメントになるかもしれない事例を出しあい、日常的に遭遇する問題を共有し今後の対策など話し合いました。学生に対する熱心な指導が結果的にはハラスメントになることもあると常に意識すること、また日常的に学生と良好な人間関係を持つことで学生が何でも教員に相談できることが、ハラスメント予防や学生支援につながると確認し合いました。

事務職員研修について

事務局長 三宅 真一

今、大学教育は、その「質的転換」が求められています。日本の将来を担う有為な人材を育成するためには、受動的な学修では限界があります。学生が自ら課題をみつけ、その解決に主体的に取り組む学修により可能となります。それは、講義や実習の改善だけではなく、講義以外の事前・事後学修について具体的な計画を示すこと、学修の場を提供することなどの様々な改革が必要となります。この観点から、平成25年度の事務職員研修は、「大学教育の質的転換とは?」というテーマで実施しています。

社会貢献活動

◆みえアカデミックセミナー 2013 (2013.7.19)

『こころとからだの健康づくり～身体の力をぬいてリラックスしてみませんか?～』萩 典子准教授



平成25年7月19日(金)三重県文化会館レセプションルームにて、「みえアカデミックセミナー2013」の公開セミナーを開催しました。

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマのもと、各校が1日ずつ公開セミナーを担当するというものです。

今年で6回目の参加となる今回は、萩典子准教授が「こころとからだの健康づくり～身体の力をぬいてリラックスしてみませんか?～」という演題で講演を行いました。

ストレスは自分の考え方次第で軽減することもできることや身体の固まった部分をゆるめてリラックスする方法などを分かりやすく説明。

89名の方にご参加いただき満席となりましたが、萩 典子准教授のおだやかな口調に会場内は終始、リラックスした雰囲気でした。

◆平成25年度四日市看護医療大学公開講座 (2013.7.28)

『在宅で介護している家族への支援』

講演「在宅で介護している家族への支援」豊島 泰子教授

体験「タッピングタッチ」伊藤 薫准教授

平成25年7月28日(日)じばさん三重 5F 大研修室にて、平成25年度 四日市看護医療大学公開講座『在宅で介護している家族への支援』を開催しました。

アンケートでは、「介護家族の現状がよく分かった。四日市市の対策などは知らないこともあり理解を深めた。四日市市だけでなく、國の方針(動向)にも目を向けて、なんなくではなくはっきりと認識していかなければと思う。タッピングタッチはもう少し学びたいと思います。」

豊島 泰子教授の講演では、在宅で介護をする人は、決して一人で負担を抱え込まず、専門職に任せてよい部分は任せたり、できるだけ自分の時間を作るようしてストレスを溜めないことが大切であると説明。

講演終了後の伊藤 薫准教授によるタッピングタッチ^{*}体験も大変好評でした。



名誉学長表彰

河野前学長は、本学の設立準備を担当され、さらに平成19年4月の開学から平成25年3月までの6年間、初代の学長を務められました。この間、看護学教育の現場で先頭に立って本学の基礎を築かれるとともに、四日市地域研究機構・産業看護研究センターの開設や大学院の設置に主導的な役割を果たされました。さらに、地域の保健・医療政策への提言など地域貢献活動にも力を注がれました。これらの多大な功労に対して、四日市看護医療大学名誉学長として表彰されました。表彰式は、平成25年6月12日、本学にて執り行われ、暁学園宗村南男理事長から表彰状が手渡されました。現在は、本学特任教授として、学部生への教育及び大学院生の研究指導を担当され、また産業看護研究センター長として引き続き地域貢献活動にご活躍されています。

平成25年度 臨地実習について

実習委員長 杉崎 一美



後期の授業の開始に伴い、大学は急に慌ただしくなっています。8月下旬より4年生の選択科目である助産学実習が始まりました。また平成24年度から新カリキュラムに導入されたコミュニティケア実習が、9月に2年生で初めて行われました。この実習は、地域住民や働く人々の健康・生活・医療と看護活動の実際を学修します。その後引き続き行われた基礎看護実習では、初めて受け持つ患者さまとの関わりを通して、人間関係づくりから生活行動援助まで行います。

3年生では、既修の総まとめともいえる領域別実習が9月より始まりました。成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、地域看護学、精神看護学と各領域をローテーションする約1年間の臨地実習が行われます。学生にとっては、学内授業とは異なり緊張と不安が高まる実習ですが、関係者の皆様のご協力もあって非常に学びの多い実習となっています。また教員一同は、この実習を通じて豊かな人間性と高度な専門性を備えた看護職の育成をめざしております。

REPORT

臨地実習の報告(これまでの学びより)

実習体験記(成人看護学実習)

杉山 記永 (3年生)

私は終末期の患者さんを受けもたせていました。初日に拒否的な態度をされ、その後の実習を続けられるか不安な気持ちになりました。しかしグループのみんなや先生、看護師の方々に励ましていただいたおかげで頑張ることができました。またこの患者さんのおかげで講義や普段の生活では学べなかつことを学んだり考えたりすることができました。どうしたら受け入れてもらえるかたくさん考え方ケアを行うことで、学びや充実さはより一層深まりとても充実した実習となりました。自分の気持ちを訴えていただいたときは、心を開いていただけたと感じて本当に嬉しかったです。実習はうまくいくことばかりではありませんが、頑張れば頑張るほど学びが深まり、また充実さや喜びも多く得られる貴重なものだと実感することができました。

実習体験記(基礎看護学実習I)

光崎 真理 (2年生)

今回、看護師とはどのような仕事なのかということを少しだけ理解できた気がします。

私の班では、それぞれの受け持ち患者さんについて、どのようなアプローチをしたらよいのかをみんなで意見を共有し実習を進めました。そのため、同じような病状にある患者さんでも、患者さんによって考え方や捉え方は本当に異なっており、患者さんの数だけの看護の仕方があるということを実感することができました。また、4日間の中で患者さんの食べては寝て、食べては寝ての繰り返し生活への諦めの気持ちが少し変化したことで看護する楽しさも知ることもできました。

実習を通して、看護師という仕事が、とても大変な仕事だけれども、やりがいのある素敵なお仕事だと知ることができ良かったです。素敵なお仕事になれるようにこれからがんばりたいと思います。



海外研修



本学では、平成20年3月にアメリカのカリフォルニア州立大学ロングビーチ校との間に学術協定を締結し、毎年約30名の学生が同校を訪れて海外研修を実施しています。この海外研修のプログラムは、英語を学ぶ語学研修とアメリカの看護について学ぶ看護研修から構成されています。

今年は、2年生30名が7月28日～8月19日までの3週間、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での海外研修に参加しました。生活スタイルや習慣も異なる生活文化を肌で感じるとともに、海外ならではのよりよい友情関係を築くことができたようです。



私は海外研修を通して、アメリカの看護について学びました。アメリカの病院では医師が常駐していることが少なく、医師からのオーダーの範囲内で患者の管理を看護師が中心に行い、専門知識が高い看護師であればイニシアティブをとることもあります。つまり、専門的知識と資格があれば看護師でも主導的にケアを行え、その結果が直に返ってくるという責任ある立場ともなります。こうした学びを受けて私は、見聞きしたアメリカの看護師像と実習などで出会う日本の看護師とを比較し、自分の理想とする看護師像を作り上げていきたいと思います。ぜひ後輩の皆さんにも体験していただきたいです。

2年生 池田 元寛

私は海外研修に参加し、アメリカの看護や医療はもちろん、文化など、他にもたくさん学びました。

施設見学や講師の方々による講義では、アメリカの医療や日本との違いを目で耳で肌で感じることができ、とても良い経験となりました。実際にアメリカで働く日本人看護師の方の話を聞くことで、海外で働くことの難しさを痛感するとともに、漠然としていたアメリカでの看護というものを自分なりにイメージすることができました。

毎日の英語の授業や、現地の人々との関わりを通して、リスニング力や語彙力を鍛えることができ、英語でのコミュニケーションの楽しさを感じられました。

海外で集団で生活することは大変な部分もありましたが、30人で支え合い協力し、絆を深めることができました。一生忘れられない思い出いっぱいの夏になりました。

2年生 磯谷 遥花



平成25年度 海外研修レポート 準教授 畑中 純子

2年生30名が海外研修に参加しました。研修プログラムは語学研修、病院・施設見学、特別講義の他、学生たちがアメリカの生活に慣れ、楽しんで過ごせるようにアクティビティも組まれていました。学生たちは日本とは異なるアメリカの背景と看護に触れ、看護の広がりを学ぶことができたようです。また、寮生活や30人の団体行動を通して、人間としての成長もあったように思います。これらの経験は、今後の大学生活、そして看護職としてのキャリア形成に生かされていくことでしょう。

よんよん祭

2013.10.26㈯～27㈰ テーマ human magic ~私たちにできること~

四日市大学と5回目の共同開催となった大学祭「よんよん祭」が行われました。本学からは、5つの模擬店の出店がありフランクフルト・餃子・ワッフルなどオリジナリティにあふれたものとなりました。

さらに、ちびっこよんよん祭として行われた「ちびよん」には多くの子供たちが駆け付け、輪投げ、塗り絵、釣りゲームなどを楽しんでいました。

また、今年度は台風の接近に伴い、一時は中止も検討された本大学祭でしたが実行委員たちの祈りが通じ奇跡的に台風の進路が逸れ、両日とも秋晴れの下盛大に開催する事が出来ました。それはまさに、今回の大学祭のテーマである「human magic」を感じ取れる出来事となりました。



第5回よんよん祭を無事に終える事ができ、大変うれしく思っております。

初めて実行委員会のメンバーとして参加し、実行委員長として何ができるのか考え続けた半年間でした。多くの問題が立ちちはだかりましたが、その都度みんなで考えを出し合い、なんとか壁を乗り越えることができました。

そして問題を乗り越えていく中で一人一人が持っている全ての力を出し切り、新しい発想を生むことで素晴らしい大学祭になったと感じています。それは、「human magic ~私たちにできること~」に込めた思いが実ったのだと感じました。貴重な経験ができ、最高の仲間と出会う事ができ本当に幸せです。

最後になりますが支えて下さった多くの皆様、本当にありがとうございました。

大学祭実行委員長 2年生 上荷 利佳

第5回よんよん祭は台風の影響でどうなることかと心配されましたが、風雨に負けることなく、晴天の中、開催することができました。今年度は目玉としてケラケラさんのライブを行いました。結果として非常に多くの来場者があり、大きな熱気に包まれた素晴らしいライブとなりました。また、ステージでは手話コーラスやフラダンスなど地域の方々にも参加をいたぐ事ができ、たくさんの笑顔が溢れる地域密着型の大学祭となりました。

こうして大成功を収めることができたのは実行委員だけなく、参加いただいた全ての皆さまのご協力があってのことです。この場を借りてお礼を申し上げます。

学友会会长 2年生 堤 梨紗

クラブ紹介

平成25年度
四日市看護医療大学 学生公認クラブ

体育会系 ■テニスサークル ■バドミントン部 ■バレーボール部 ■フットサルサークル
■ジャズダンスサークル ■バスケットボール部

文化会系 ■軽音楽部 ■ボランティアサークル ■IN会(国際看護)
■ぐれよん ■災害支援の会 ■インドネシア人看護師サポートチーム

バドミントン部

私たちバドミントン部は、一年生と二年生合わせ30人で週一回火曜日に体育館で活動しています。初心者や経験者関係なく、みんなでいつも楽しく活動を行っています。楽しい中でも上達を目指す人は自分で大会へ参加し、試合を行うこともあります。

また、25年度の大学祭では模擬店を出店しました。みんなで作り上げた模擬店は大盛況で、サークルの仲間たちとも一段と絆を深めることができました。

このようにこれからはサークル内でバドミントンだけでなく、活動の幅を広げて行きたいと思っています。



ボランティアサークル



私たちボランティアサークルは、現在、エスペラנס四日市という児童養護施設に訪問し、施設の子供たちと交流活動を行うことや菰野町保健福祉センターで障がい児の方たちのイベントのお手伝いなどを中心に活動しています。

ボランティア活動は、奉仕活動と思われる事が多いのですが、そういった側面にプラスして新しいことの発見・勉強する機会や新しい人の出会いの場でもあり、自分にとってかけがえのない経験が出来る事も少なくありません。勉強で忙しい中、自由意志のもとメンバーは時間を見つけて活動しています。

これからは現在の活動を継続しながらも、新しいボランティアの場を見つけて活動していきたいと考えています。私たちの活動へご賛同いただける方、また興味のある方は一緒に活動してみませんか。

学生相談室

毎週金曜日の午前11時～午後2時に、臨床心理士の先生による本学学生を対象としたカウンセリングを受け付けています。日常生活での問題や実習での悩み等、ストレスやトラブルがあれば、一人で悩まず相談してください。予約



制ですが、空いていれば当日でも受け付けています。秘密は厳守されます。

保健室だより

平成23年頃より流行している風疹の全国の罹患者数は、平成22年87名、平成23年378名、平成24年2,391名、平成25年7月27日現在13,344名です。風疹の好発時期は3～7月で、現在は収束傾向にあると言われています。妊娠初期に風疹に感染すると、胎児が先天性風疹症候群を発症する可能性

があり、その症状は、先天性心疾患、難聴、白内障、発育遅滞、精神発達遅滞等の重症なものです。本学では、新入生と新規に着任した教職員に風疹抗体検査(免疫があるかどうかの検査)を行っており、免疫がない場合はワクチン接種を勧めています。

プロジェクター・スクリーンをリプレース

授業環境充実
30A・40A教室のプロジェクター・スクリーンのリプレースを行いました。
プロジェクターは高輝度・高画質の最新機種で、スクリーンは電動昇降型となり、授業運営が非常に便利になりました。



平成24年度 国家試験・就職進路状況

第3期卒業生(平成25年3月卒)

保健師・助産師・看護師国家試験合格状況

本学の国家試験対策として、4年生は、年間10回の国家試験対策模試(看護師6回・保健師2回・助産師2回)を始め、夏季・秋季・冬季・直前期の国家試験対策特別講義、ガイダンスなどを実施しました。また、3年生対象にも夏季に特別講義を実施し、学力の定着と国家試験への意識を高めるなどのバックアップ態勢を整えています。

平成24年度 国家試験合格率

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| ◆看護師: 84.1% (受験者82名/合格者69名) | ◆保健師: 87.3% (受験者79名/合格者69名) |
| ◆助産師: 100% (受験者6名/合格者6名) | ◆看護師・保健師・助産師3資格同時取得者: 6名 |

就職・進路状況 高度医療対応の病院や大学病院などに就職!

平成24年度就職状況は、国家試験合格者全員が、看護師、助産師、保健師として就職を決め、就職率は、100%となりました。その多くは、大学病院、公立病院を中心とした総合病院に、また、地域別では、三重県内施設に6割以上が就職を決める結果となり、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に十分に応えることができました。



先輩社会人に就職活動や仕事について
真剣に説明を受ける学生達(学内説明会にて)

平成24年度 就職先 (平成25年3月卒業者)

地域別就職先		施設名順不同
三重県	市立四日市病院、四日市社会保険病院、みたき総合病院、三重県立総合医療センター、三重大学医学部附属病院、三重中央医療センター、伊勢赤十字病院、済生会松阪総合病院、いなべ総合病院、菰野厚生病院、三重県(保健師)、名張市(保健師)	
愛知県	名古屋大学医学部附属病院、名古屋医療センター、名古屋市立大学病院、あいち小児保健医療総合センター、名古屋市立西部医療センター、名古屋掖済会病院、名古屋第一赤十字病院、藤田保健衛生大学病院、中部労災病院、名古屋セントラル病院、名古屋記念病院、小牧市民病院、海南病院、尾西病院、中部電力(保健師)	
埼玉	埼玉協同病院	
静岡	浜松医科大学医学部附属病院	



本年度 学位記授与式

平成26年3月10日(月)
四日市都ホテルにおいて
挙行する予定です。



大学院 看護学研究科看護学専攻(修士課程) 四日市看護医療大学大学院

多様化・高度化する看護ニーズに対応する専門知識・技術を有する高度実践看護学専門職や看護学の発展に寄与・貢献できる教育・研究者を養成するため、2011年4月に四日市看護医療大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程、入学定員10名)を開設しました。修士論文コース(基礎看護学領域、産業看護学領域、実践看護学領域)と専門看護師(CNS)コース(実践看護学領域)の2コースがあります。

ここでは社会人のために、勤務を継続しながら学習できるよう、平日の午後6時以降や土曜日に授業を行うほか、夏季休暇などを利用した集中講義も併せて行います。また、仕事をしているなどの理由により、2年間の標準修業年限で修了が困難な学生に対して、長期履修制度(入学時から3年間)を設けています。



本研究科では、生命の尊厳と深い人間理解に基づいた看護実践能力を培い、看護医療分野でリーダーシップを担う高度専門職業人並びに高度な専門知識を備えた教育・研究者を養成します。

2013年3月には1回生5名が本大学院を終了しました。また、現在、修士論文コースで22名、専門看護師(CNS)コースで1名の学生が学んでいます。



宮崎徳子奨学金について

平成25年12月6日(金)本学会議室において、第1回宮崎徳子奨学金表彰式が行われました。この奨学金制度は、本学に在籍する学生が学修意欲を高め、看護専門職業人となる自己の目標を明確にして、人材の育成に資することを目的として設立されました。奨学金授与の対象者は4年生4名、3年生3名の計7名で、丸山学長から、奨学金(10万円)と授与証書が手渡されました。また、表彰式では、奨学金の出資者である前学科長・学生支援センター長の宮崎学長補佐より、奨学生に対して、今後も健康に留意し、より一層学業に励み、他の学生の模範となるように努力して欲しい旨の激励がありました。

